

令和3年度事業報告
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

- (1) ジュニアに対する普及・指導活動の充実と助成活動を進め、会員の拡大を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の各大会中止により、会員数の減少を招いたが、令和3年度については、各加盟団体の推進努力により 285,007 名の会員数を得て回復基調となってきた。会員登録30万人の目標に更なる助成活動を推進する。

(2) 第30回全国小学生バドミントン選手権大会

12月26日から12月29日までの4日間、福島県郡山市宝来屋郡山総合体育館及び須賀川アリーナで役員延1,270名の指導により、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単41名、同複33組、女子単41名、同複33組、5年生以下男子単34名、同複33組、女子単35名、同複33組、4年生以下男子単34名、同複33組、女子単33名、同複33組、団体戦実人員570名、個人戦実人員614名の参加で開催。優勝者は男子団体 富山県、女子団体 鹿児島県、6年生以下男子単 松本眞優(栃木県)、同複 美濃龍斗・坂本結翔組(千葉県)、同女子単 阿波芽衣咲(福岡県)、同複 青山ひかり・高玉幸佳組(茨城県)、5年生以下男子単 松下一誠(北北海道)、同複 石井春馬・山口拓組(東京都)、同女子単 板橋ゆい(宮城県)、同複 近藤愛未・眞泉果央組(京都府)、4年生以下男子単 串間太政(宮崎県)、同複 内藤遥希・稲川達士組(埼玉県)、同女子単 富田千晴(茨城県)、同複 烏川愛加・武石玲那組(茨城県)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(3) 第22回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

8月14日から8月15日までの2日間、熊本県八代市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(4) 第37回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

7月17日から7月19日までの3日間、京都府長岡京市西山公園体育館で、役員延650名の指導により、男子の部36都道府県47チーム、女子の部40都道府県46チーム、実人員697名の参加で開催。優勝者は男子の部 岡垣ジュニア(福岡県)、女子の部 青梅ジュニア(東京都)で、新型コロナウイルス感染症対策の徹底により今までの大会より制限が多い中で、日ごろの練習の成果を十分発揮し試合に臨み、体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成に効果を挙げ、心身ともに鍛えられ成長を実感することができた。

(5) 第51回全国中学校バドミントン大会

8月20日から8月23日までの4日間、山梨県甲府市小瀬スポーツ公園体育館で、役員延243名の指導により学校対抗男子24校、女子24校、男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員440名の参加で開催。優勝者は、学校対抗男子 埼玉栄中学校(埼玉県)、同女子 青森山田中学校(青森県)、男子単 澤田修志(埼玉県埼玉栄中学校)、同複 中静悠斗・藤吉珠李組(福島県立ふたば未来学園中学校)、女子単 宮崎友花(山口県柳井市立柳井中学校)、同複 上野凜・垣内杏南組(埼玉県埼玉栄中学校)で、日本中体連との共催で中学生に正しい技術を習得させることができた。

(6)第22回全日本中学生バドミントン選手権大会

令和4年3月25日から3月27日までの3日間、徳島県鳴門市アミノバリューホール・徳島市とくぎんトモニアリーナ・吉野川市アリーナの3会場で、役員243名の指導により、都道府県対抗男女混合団体49チーム、実人員522名の参加で開催。埼玉県が優勝し、中学生の健全育成に寄与することができた。

(7)第50回全国高等学校選抜バドミントン大会

平成4年3月24日から3月28日までの5日間、栃木県宇都宮市日環アリーナ栃木で、役員延1,238名の指導により、学校対抗男子50校、女子50校、男子単32名、同複32組、女子単32名、同複32組、実人員1,050名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子 ふたば未来学園高校(福島県)、同女子 柳井商工高校(山口県)、男子単 齋藤駿(ふたば未来学園高校・福島県)、同複 岩野滉也・齋藤駿組(ふたば未来学園高校・福島県)、女子単 明地陽菜(柳井商工高校・山口県)、同複 室屋奏乃・今村涼組(九州国際大学付属高校・福岡県)で、それぞれ高校生の交流と技術の習得に大きな成果を収めた。

(8)第20回日本バドミントンジュニアグランプリ2021

12月17日から12月19日までの3日間、栃木県宇都宮市日環アリーナ栃木で、役員延516名の指導により、男子の部35団体、女子の部35団体、実人員381名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉県、女子大阪府で、全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制の確立促進を図るとともに、ジュニア層への普及に大きな成果を収めた。

(9)第39回全日本レディースバドミントン選手権大会

8月26日から8月29日までの4日間、山形県山形市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(10)第16回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月3日から12月5日までの3日間、香川県坂出市立体育館・丸亀市民体育館の2会場で、ダブルス個人戦を実施し、31都道府県、実人員542名の参加で開催。優勝者は1部 岸上紗帆・勝間香菜恵組(京都府)、2部 Aブロック 竹中愛依里・木場叶華組(香川県)、2部 Bブロック 竹内郁・板垣雅美組(東京都)、2部 Cブロック 日野石智子・村上恵組(広島県)、2部 Dブロック 原口明子・中小原知子組(福岡県)、2部 Eブロック 岡田安代・松原真由美組(香川県)、2部 Fブロック 竹田由美子・磯山浩美組(大阪府)、2部 Gブロック 高垣尚美・大東恵里子組(兵庫県)、2部 Hブロック 小原真澄・佐藤忍組(宮城県)、2部 Jブロック 菊池葉子・上田佳代子組(東京都)、2部 Kブロック 新田豊子・竹林佐代子組(香川県)、2部 Lブロック 田代千知子・池原志子組(神奈川県)、2部 Mブロック 土庵清子・石井伸子組(奈良県/山口県)、2部 Nブロック 小川末子・一木房枝組(福岡県)でレディースへの普及と発展に成果を収めた。役員延285名

(11)用器具検査並びに認定

10月23日、2月6日に検定審査会を実施し、第1種水鳥シャトル25種(内新規2種)、第2種水鳥シャトル9種(内新規1種)、合成シャトル1種、ラインテープ3種(内新規1種)、ラケット138種(内新規65種)、ネット21種(内新規2種)、ウェア691種(内新規360種)、ストリングス52種(内新規13種)、シューズ90種(内新規44種)を認定した。また、検定審査会の実施回数を2022年度分より年2回から3回に増やし、更に検定審査会後の合格通知・公表時期も前倒ししてユーザーニーズに対応した。

(12) 競技規則書及びルール教本発行

競技規則並びに諸規程の周知徹底、各都道府県協会や8連盟が審判講習会・審判員資格検定会等において使用するために、「2020－2021BADMINTON 競技規則(諸規定集)」を発行した。また、3級・準3級公認審判員資格検定会でルールを分かり易く周知徹底させるためのルール教本を、令和3年度は「2020年版3級・準3級公認審判員資格検定会ルール教本(緑本)」を引き続き発行した。これにより常に新しい競技規則等の正確な資料を提供し、正しいルールに基づく円滑な試合運営の実施と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13) 会員普及

コロナ禍の中、加盟団体と連携し、昨年度激減した会員数の回復に努めた。また、会員登録システムの活用により、電子化された会員証及び審判員手帳等の機能を維持し、都道府県協会の会員登録業務の利便性を図った。

(14) 指導教本発行

新型コロナウイルス感染症の影響で遅れていたコーチ3、コーチ4の養成講習会用公式テキストについて、令和4年度中の完成を目指し編集、作成に取り掛かった。

(15) 広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供した。昨年は、新型コロナウイルス感染症対策によりいくつかの大会が中止となりました。12月開催の全日本総合バドミントン選手権(武蔵野の森総合スポーツプラザ・有観客試合)において、バドミントン競技の普及・発展及び愛好者に対し、バードスコア、フジテレビによる全試合配信を行うことにより会員拡大を図った。

(16) 連盟に対する助成

学生連盟、高体連、中体連、小学生連盟、教職員連盟、レディース連盟、実業団連盟、社会人クラブ連盟の8連盟に対し、助成し、同連盟のより活発な活動を図るべく助成した。

(17) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を図った。

(18) バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会の歴史やバドミントン競技の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミントンの魅力を多くの人々と共有し、バドミントンの発展に寄与するため、加盟団体等から寄贈を受けた周年記念誌等を電磁的に記録し、公開を開始した。また、1種大会の大会プログラム及び結果報告についても電磁的に記録し公開を行った。

(19) バドミントン・レガシーの創出と継承

バドミントン未来創造アカデミー2期生の報告会を2年間延期していたが、1期生の出席の下に開催し、交流を図った。本年度の開講は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止とした。

(20) バドミントンフェスタ2021

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(21) バドミントンファンクラブ

日本代表選手のファンクラブ会員を募集し、日本バドミントン界の普及・発展及びバドミントンファン拡大を図るべく取組を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、会員増大には繋がらなかった。

(22) 第3回NBAフォーラム

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(23) 75周年記念事業

令和3年(2021年)11月2日に本会の創立75周年を迎えた。記念史を完成する予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により東京2020が延期となり、また、インタビュー収録も予定どおりに実施出来ずに、大幅に遅れたことから、最終的に完成目標を令和4年11月末まで延長することとした。

(24) 新型コロナウイルス感染症拡大防止事業

新型コロナウイルス感染拡大予防として本会が策定した「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン」及び「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン3章バドミントン競技大会・イベント実施にあたって」に沿って都道府県協会が第1種大会等を運営できるように助成を行った。また、このことを通じて都道府県協会の安定運営に向けた支援を行った。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1) 公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣と資質向上

公認A級・B級レフェリー有資格者を令和3年度実施予定の全ての第1種年次大会(17大会)にレフェリー及びデビュティーレフェリーとして派遣し、大会の運営全般の統一性と公正化を図った。

また、平成26年度に創設された国内レフェリー認定委員制度(兼国内レフェリーインストラクター制度)を活用し、公認レフェリー資格者の資質の向上のために、レフェリーインストラクターを全日本総合選手権大会等の4大会に派遣する予定をしていたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(2) 公認B級レフェリー資格検定会

公認B級レフェリーの育成と定数(全都道府県各1名、9地区各1名、8連盟各1名)の維持を図るために、公認B級レフェリー資格検定会を3月に実施した。

(3) 公認レフェリー研修会

本会第1種大会における競技規則の統一と大会の公正さを図り、大会全般にわたる運営及び審判団の指導、管理のために、競技諸規程の改定箇所を確認、諸規程に対するルール解釈の統一と資質の向上を図るために研修会を1月に実施した。

(4) 資格審査認定委員資格更新講習会並びに資格審査認定委員検定会

令和3年度は開催予定なし。(令和4年度に実施予定)

(5) 公認審判員資格検定会

正しい競技規則の習得と審判技術の向上による円滑な大会運営を図るため公認審判員資格検定会を開催し、本会公認審判員の育成を図った。1級審判員検定会は本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、8 連盟が主催し開催された。検定会においては、本会公認審判員資格審査認定委員が担当した。公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験を実施し、合格者を各級公認審判員に認定し、各地で実施される大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営に寄与した。

(6) 公認審判員資格認定登録

公認審判員資格登録規程に定める審判員資格検定に合格した者は、1級 34名、2級 88名、3級 2, 33 6名、準3級 6, 542名、準3級から3級への移行者は 1, 145名で、それぞれ資格登録が完了した。また同規程により、1級 263名、2級 366名、3級 10, 018名の有資格者が資格を更新し、1級 3名、2級 5名、3級 34名が、再取得をした。有資格者総数は、62, 462名、1級 1, 155名、2級 1, 375名、3級 39, 484名、準3級 20, 488名となった。

(7) 国際審判員・国際線審の研修及び活動

国際審判員資格既得者の研修・活動として、BWF、Badminton Asia の指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を国際大会へ派遣する予定であったが、オリンピック・パラリンピックを除き派遣することができなかった。しかし、BWF、Badminton Asia の主催の WEB による多くのレフェリー・審判員セミナーが開催され、国内の多くの国際審判員や受験候補生が受講した。派遣事業は、国際交流にも大いに貢献できるものなので次年度はできる限り派遣したい。

(8) 国際審判員、国際線審の派遣、受入および国際審判員相互派遣事業(イクスチェンジプログラム)の推進、国際審判員の国内開催国際大会への派遣

新型コロナウイルス感染症対策の影響のため、国際審判員相互派遣事業(イクスチェンジプログラム)ではフレンチオープンのみ派遣を実施した。また国際審判員を国内開催の国際大会3大会に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により大会が中止となった。

(9) 公認スポーツ指導者養成講習会

公認コーチ3、コーチ4養成講習会を当初の計画通り開催したが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、コーチ4後期講習会は、3月に延期して開催した。各都道府県バドミントン協会が各々のスポーツ(体育)協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認コーチ1は、岩手県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、長野県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県の10都県で開催された。公認コーチ2は、静岡県、愛知県、奈良県、高知県の4県で開催された。

(10) 公認スポーツ指導者全国担当者会議

公認スポーツ指導者養成の必要性および公認スポーツ指導者養成制度を周知し、全ての都道府県協会において養成講習会や更新研修会が開催されることを目指すことを目的とした担当者会議をオンラインにて開催し、45都道府県の担当者50名が参加した。

(11) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(12) 公認スポーツ指導者の資格更新

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受講が義務付けられているコーチ3、コーチ4更新研修会は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、第1回目、第2回目とも課題レポートによる代替措置を行い、合計90名がレポートを提出した。また、32都道府県協会(延39回)で、公認コーチ1・コーチ2資格更新ための更新研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った(内21回はレポートによる代替措置)。なお、公認コーチ3、コーチ4の更新研修会受講者及び各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認コーチ1、コーチ2の更新研修会受講者を、公益財団法人日本スポーツ協会へ報告した。

(13) 全国巡回バドミントン講習会

9会場での開催を予定していたが、京都府、鳥取県の2会場での開催となった。山形県、群馬県、岐阜県、山口県、高知県、宮崎県、沖縄県の7会場は、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響で中止とした。

3. 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟(BWF)及び Badminton Asia への加盟と国際貢献

(1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣

公益財団法人日本スポーツ協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2) 世界バドミントン連盟(BWF)総会等への代表者の派遣

昨年に続いて BWF.AGM(総会)が新型コロナ禍感染拡大の影響からバーチャル会議での開催となった。5月22日日本協会事務所内において日本時間8時より10時20分まで、銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・三宅守(事務局員)の三名が参加し、国際スポーツ振興及び世界バドミントン競技の発展を図った。

(3) Badminton Asia 総会等への代表者派遣

上記と同様に Badminton Asia のバーチャル総会が12月22日、日本時間5時より6時20分まで、銭谷欽治専務理事・三宅守事務局員は日本協会事務所にて、小柳尚久国際部長は自宅にて参加した。アジアスポーツ振興及びアジアバドミントン競技の発展を図った。

(4) 国際貢献

バドミントン発展途上国(グアテマラ、バルバドス)に物品支援(中古ラケット、シャトル、ウェア、シューズ等)を行い、本会が国際貢献を通じて世界のバドミントン界の普及発展に寄与した。なお、バドミントン発展途上国への競技力向上支援事業(コーチ派遣・海外指導合宿実施・国内受入等)については、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により収束後まで延期することとした。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第14回全国社会人クラブバドミントン選手権大会(個人戦)

6月18日から6月20日までの3日間、愛知県豊田市で開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(2) 第71回全日本実業団バドミントン選手権大会

6月23日から6月27日までの5日間、愛知県名古屋市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(3)第72回全国高等学校バドミントン選手権大会

8月8日から8月13日までの6日間、富山県高岡市高岡竹平記念体育館他4会場で、男子団体50団体、女子団体50団体、男子単98名、同複山98組、女子単98名、同複98組、実人員1,020名の参加で開催。優勝者は男子団体 ふたば未来学園高校(福島県)、女子団体 柳井商工高校(山口県)、男子単 森口航士朗(埼玉栄高校)、同複 荻原聖也・武井凜生組(ふたば未来学園高校)、女子単 久湊菜々(岡崎城西高校)、同複 明地陽菜・田口真彩組(柳井商工高校)、競技役員延1,260名。

(4)第60回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月15日から8月19日までの5日間、新潟県新潟市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(5)第23回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月15日から8月18日までの4日間、神奈川県小田原市小田原アリーナで、男子団体46団体、女子団体43団体、男子単96名、女子単94名、実人員541名の参加で開催。優勝者は、男子団体 熊本県、女子団体 東京都、男子単 二神侑雅(愛媛県)、女子単 辻結真(東京都)、競技役員延188名。

(6)第9回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月7日から8日の2日間、神奈川県小田原市小田原アリーナで開催予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により大会日程と会場を変更して、11月13日から11月14日までの2日間、福島県郡山市宝来屋郡山総合体育館で、実人員154名の参加で開催。優勝者は、緑川大輝・吉田瑠実組(早稲田大学)、競技役員延94名。

(7)第45回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

8月28日から8月29日の2日間、岩手県一関市総合体育館で開催予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により大会日程を変更して、12月4日から12月5日までの2日間、男子団体12校、女子団体9校、男子単16名、同複16組、女子単16名、同複16組、実人員176名で開催。優勝者は男子団体 米子高専(鳥取県)、女子団体 熊本高専(八代キャンパス・熊本県)、男子単 國分蓮太(北九州工業高専)、同複 室屋鼓太郎・國分蓮太組(北九州工業高専)、女子単 森本暁音(熊本高専・八代キャンパス)、同複 森本暁音・伊藤七奈星組(熊本高専・八代キャンパス高専)、競技役員延114名。

(8)第64回全日本社会人バドミントン選手権大会

9月3日から9月8日までの6日間、鳥取県鳥取市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(9)日本マスタース2021大会バドミントン競技会

公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、9月18日から9月20日までの3日間、岡山県総社市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(10)第40回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月17日から9月20日までの4日間、大分県大分市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(11)第76回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、9月25日から9月28日までの4日間、三重県伊勢市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(12)第72回全日本学生バドミントン選手権大会

10月15日から10月21日までの7日間、奈良県奈良市ロートアリーナ奈良・桜井市芝運動公園体育館で、男子団体32団体、女子団体32団体、男子単96名、同複96組、女子単96名、同複96組、実人員978名で開催。優勝者は男子団体 明治大学(東京都)、女子団体 筑波大学(茨城県)、男子単 緑川大輝(早稲田大学)、同複 武井優太・遠藤彩斗組(明治大学)、女子単 佐川智香(筑波大学)、同複 植村理央・佐藤灯組(龍谷大学)、競技役員延397名。

(13)バドミントンS/Jリーグ2021

令和3年11月6日から令和4年2月12日までの間、全国各地で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響により日程・対戦方式・開催地を変更し、令和4年2月5日・6日のトーナメント方式1・2回戦を熊本県熊本市熊本県立体育館・八代市八代トヨオカ地建アリーナで、男子10チーム、女子10チーム、参加選手約200名で開催。2月11日・12日にトーナメント方式準決勝・決勝・順位決定戦を東京都渋谷区東京体育館で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止とした。競技役員延400名。

(14)バドミントン S/JリーグⅡ2021

11月18日から11月21日までの4日間、栃木県大田原市栃木県立県北体育館で、男子8チーム、女子8チーム、実人員240名で開催。優勝は男子 コンサドーレ(北海道)、女子 丸杉(岐阜県)、競技役員延371名。

(15)第38回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月19日から11月22日までの4日間、福岡県北九州市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(16)第75回全日本総合バドミントン選手権大会

12月24日から12月30日までの7日間、東京都調布市武蔵野の森スポーツプラザで、男子単52名、同複48組、女子単53名、同複45組、混合複32組、実人員355名の参加で開催。優勝者は男子単 田中湧士(日本大学 東京都)、同複 高野将斗・玉手勝輝組(日立情報通信エンジニアリング 神奈川県)、女子単 奥原希望(太陽ホールディングス 東京都)、同複 保原彩夏・宮浦玲奈組(ヨネックス 東京都)、混合複 緑川大輝・齋藤夏組(早稲田大学 東京都・ACT SAIKYO 山口県)、競技役員延1,400名。

(17)第22回全国社会人クラブ対抗バドミントン選手権大会

令和4年2月11日から2月13日までの3日間、岡山県岡山市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1)ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2021

3月31日から4月4日までの5日間、大阪府守口市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(2)ヨネックス秋田マスターズ2021

8月17日から8月22日までの6日間、秋田県秋田市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(3)ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2021

9月27日から10月3日までの7日間、大阪府大阪市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(4)ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2021

10月28日から10月31日までの4日間、大阪府大阪市で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止とした。

(5)日韓高校生交流競技会

令和3年度の日韓高校生交流競技会は、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止となった。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1)第32回オリンピック競技大会 東京2020

7月24日から8月2日までの10日間、東京都/武蔵野の森総合スポーツプラザへ監督朴柱奉他役員8名、選手男子6名、女子7名を派遣。成績は混合複渡辺勇大・東野有紗組3位銅メダル。

(2)日韓ナショナル交流競技会

令和3年度の日韓ナショナル交流競技会は、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止となった。

(3)FISU ワールドユニバーシティゲームズ

8月17日から8月28日までの12日間、中国/成都市へ派遣を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により延期。

(4)スディルマンカップ2021

9月26日から10月3日までの8日間、フィンランド/ヴァンター市へ団長原田利雄他役員12名、選手男子8名、女子7名を派遣。成績は決勝で中国に敗れ準優勝。

(5)世界ジュニア選手権大会2021

10月4日から10月17日までの14日間、中国/成都市へ派遣を予定していましたが新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により延期。

(6)トマス杯・ユーバー杯

10月9日から10月17日までの9日間、デンマーク/オーフス市へ団長原田利雄他役員12名、選手男子11名、女子10名を派遣。成績は男子トマス杯準決勝で中国に敗れ3位、女子ユーバー杯決勝で中国に敗れ準優勝。

(7) ワールドツアーファイナルズ2021

12月1日から12月5日までの5日間、インドネシア/バリ市へ監督朴柱奉他役員9名、選手男子4名、女子4名を派遣。成績は男子複保木卓朗・小林優吾組優勝、女子単山口茜3位、女子複志田千陽・松山奈未組準優勝、混合複渡辺勇大・東野有紗組準優勝。

(8) 世界選手権大会2021

12月12日から12月19日までの8日間、スペイン/ウエルバ市へ監督朴柱奉他役員9名、選手男子14名、女子14名を派遣。成績は男子複保木卓朗・小林優吾組優勝、女子単山口茜優勝、女子複永原和可那・松本麻佑組3位、混合複渡辺勇大・東野有紗組準優勝、山下恭平・篠谷菜留3位。

(9) 令和3年度日・韓・中ジュニア交流競技会

令和3年度の日・韓・中ジュニア交流競技会は、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により中止となった。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び選手強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を図った。

(2) アンチドーピング対策

公益財団法人日本アンチドーピング機構(JADA)との協力により、「日本ドーピング防止規程」によるドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施した。また、ナショナルA代表はもとより、ジュニア選手へのアンチドーピング・アウトリーチ活動を積極的に進めた。

(3) 選手強化

本年度は、昨年から延期となった東京オリンピック2020のメダル獲得を中心に強化事業を実施し、更に2024年パリオリンピックに対しても繋がる対策プロジェクトと位置づけ、オリンピック代表・ナショナルチームA代表・B代表を積極的に国内合宿、海外遠征等の強化に努めたがオリンピック開催前の重要な時期に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。しかし、オリンピック後においては国際大会も徐々に開催され、結果にも表れたようにナショナルチームのより一層の選手強化を図ることができた。また、ジュニア層の競技力向上を図るために、設定してあるカテゴリーU-19(高校生)・U-16(中学生)・U-13(小学生)を継続的に、海外派遣も予定に入れて強化を図ったが、海外派遣事業については新型コロナウイルス感染症予防対策のためにほとんどが中止となってしまった。次代のオリンピック、世界選手権大会等に備え、有望選手の発掘に努めるとともに、U-19(高校生)においては、ナショナルB代表との合同強化合宿を実施するなど選手強化体制の充実を図った。

8. 組織運営

(1) ガバナンスコードの推進

スポーツ庁において策定された「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」において、スポー

ツ基本法第 5 条第 2 項に規定する、スポーツ団体における自ら遵守すべき基準の作成等に資するよう、適切な組織運営を行う上での原則・規範として、スポーツ団体ガバナンスコードが策定された。本会は、ガバナンスコードの遵守状況について、具体的かつ合理的な自己説明を行い、これを公表した。

(2) マーケティング及びバドミントンS/Jリーグの改革

中・長期的視野に立った日本バドミントン協会の永続的な健全発展を目標に世界トップレベルの代表選手を擁するまでになったステージをチャンスと捉え、今、マーケティング施策をメインにバドミントンS/Jリーグ改革も同時に進め、日本バドミントン界を国民から広く支持される真のスポーツとして成長・発展を目指した。次なる世代人材育成に務め、健全な財政基盤を強固なものに構築することが必須であり最重要課題としての取り組みを継続中である。